

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年7月15日
- 事業名 : 子育てワンストップセンター及びネットワークの構築
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人宮崎文化本舗
- 実行団体 : 特定非営利活動法人みやざき子ども文化センター

### 1 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
県内におけるさまざまな支援サービス提供者を発掘しネットワークを構築する。さらに課題解決に繋がる制度やサービス、支援の過不足を把握する。	相談窓口の開設	4 ツール (TEL/メール/リモート/SNS)	令和4年 10月	3つの相談窓口の整備が完了。 ・TEL（相談専用の携帯電話） ・メール（相談専用のメールアドレスの取得） ・必要に応じて Zoom で相談対応できるようにしている。	1
	支援団体数 団体数	2年目：30団体発掘 3年目：50団体発掘	令和5年 3月	支援団体数を把握するためのアンケートを作成中。	3
	ネットワーク登録	2年目：50団体 3年目：70団体	令和6年 3月	アンケート調査及び講演会にてネットワーク構築の周知を行う。	3
	支援の種類と数	2年目：30種類（数） 3年目：50種類（数）		支援団体の支援の種類と数を把握するためのアンケートを作成中。	2

支援サービス提供者の課題解決のため、支援サービス提供者同士のマッチング（それぞれの課題を共有し、お互いの強みで補う）及び支援者の人材育成を行う。	研修の開催数	2年目：3回 3年目：5回	令和5年 3月	アンケート調査の結果の集約後、活動を展開する。	2
	講師派遣回数	2年目：3回 3年目：5回			令和6年 3月
	ボランティア派遣回数	2年目：3回（延べ9人） 3年目：5回（延べ15人）	2		
『子育てワンストップセンター』のコーディネーターが活躍していくためのコミュニケーションスキルや現行の制度やサービスの把握、他県の取り組みにアンテナを張るなど、コーディネータースキルの資質向上を図る。	研修の開催数及び研修受講数	2年目：開催1回 受講 5回 3年目：開催1回 受講 5回	令和5年 3月	令和4年7月15日にコーディネーター研修を実施。	2
	意見交換会開催数	2年目：2回 3年目：2回	令和6年 3月	県内外の新規事業や先進地視察を計画中。	2
『子育てワンストップセンター』のマネジメントをしていくために、事務局機能の整備を行う。	コンプライアンスの見直し	3回／年	令和4年 3月 令和5年 3月 令和6年 3月	定期的にコンプライアンス規定の確認及び見直しを行っている。 令和4年7月15日にグッドガバナンス認証に係る研修を受講予定。	2
	リスク管理の見直し 人員配置の見直し	3回／年		業務分担等を整理し、計画に合わせた人員配置の見直しを行った。 令和4年7月15日にグッドガバナンス認証に係る研修を受講予定。	2
	事業計画・資金計画の見直し	3回／年		中間評価に向け事業計画及び資金計画の確認を行う予定。	2

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
実行団体内のミーティングや外部との打合せの際は、積極的にオンライン（Z o o m）を活用することで、新型ウイルス感染拡大防止の観点に配慮し、活動を行った。

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

HP及びSNSを9月公開予定。（添付資料①参照）

2.広報制作物等

みやざき子育てワンストップセンターの愛称のコンセプトについて（添付資料②参照）

3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	実施状況の分析・アウトカムの分析	片野坂 千恵	NPO 法人みやぎ子ども文化センター事務局長
内部	実施状況の分析・アウトカムの分析	長谷川 岳子	NPO 法人みやぎ子ども文化センター
内部	実施状況の分析・アウトカムの分析	森田 あかね	NPO 法人みやぎ子ども文化センター
内部	実施状況の分析・アウトカムの分析	竹井 佐織	NPO 法人みやぎ子ども文化センター

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況（アウトカムで捉える変化の主体→短期アウトカムと置き換えてください）

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
『子育てワンストップセンター』の活動が支援サービス提供者へ認知されている状態となる。	1 ネットワークの登録団体数 2 相談件数	1 100 団体 2 50 件	令和 6 年 3 月	現在まで広報を行っていなかった為、認知されていない状態ではあったが、9 月に設立記念講演会を行ったことで、県内に広く広報ができた。さらに、今後県内 26 市町村の訪問を行うことから、認知度は上がっていくと考えられる。指標の「ネットワークの登録団体数」については、「連携先」として捉え、100 団体の連携先を目指していく。また、相談件数については、ワンストップセンターができることを示しながら、支援サービス提供者へのアプローチを行っていく。
ネットワークに登録した団体の人材育成や運営に対する課題が解決し、新規事業の展開や活動機会の増加、活動エリアが拡大していく。	1 新規事業件数 2 活動機会の増加した団体数	1 1 事業 2 3 団体	令和 6 年 3 月	支援サービス提供者向けのアンケートを実施することで課題把握を行うため、現在では状況が見えておらず課題解決に至っていない。そのため、今後アンケートを行った団体にヒアリングを行い、課題解決を目指していく。

実行団体の人材育成や事業拡大など組織や事業の基盤が強化され、安定した運営が出来ている状態となっている。	グッドガバナンスの認証	認証	令和6年3月	スタッフアンケートを実施したことで、実行団体のミッションや事業について理解度が低いことが分かった。そのため、全スタッフに対して団体概要説明会やレクチャーを行うためのツールの作成を計画していく。また、グッドガバナンス認証に向けての勉強会を実施し、年度内に着手できる見込みができたため、認証に向けて整備・強化を行っていく。
---	-------------	----	--------	---



## 2 アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
事業を通して最終的に達成したい目標や短期・中長期的なアウトカムは達成される見通しがあるか。	今回の中間評価で、事業計画全体の見直しを行うことができた。そこで、スタッフ間の認識の違いや、活動がアウトプット、アウトカムへ繋がりにくい部分もあり、活動の見直しが必要だと合意した。	活動の見直しが必要だと合意したため、活動について出来ている/出来ていない、もしくはなぜ出来ていないのかなど状況確認をし、アウトプット/アウトカムと照らし合わせながら事業計画の改善を行っていきたい。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>ワンストップセンター設立記念講演会を実施し概要説明を行ったことで、第一ステップとして知って頂く機会を作れた。さらに、県内26市町村を啓発及び支援サービス提供者発掘のために訪問することを計画し、事業終了時には目標値を達成できると考える。</p> <p>さらに、支援サービス提供者へアンケート調査を行い、ヒアリングを行っていくことで、連携先が増えていくと思われる。</p> <p>また、実行団体の組織や事業の基盤強化については、スタッフアンケートを行った結果を十分に活用し、スタッフの質の向上を行う。また、グッドガバナンス認証に向けての勉強会等を実施し、今年度内に着手できる見通しがたったため、おおむね達成できる見込みがあると考えます。</p> <p>但し、支援サービス提供者の課題解決や活動機会の増加・エリア拡大については、課題のニーズ把握(アンケート調査)を行ってからでないと、現状では達成できるかは不透明である。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### 1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	担当者が複数で行っているため、情報共有や意思決定、達成状況について共有・確認ができていますか。また改善が必要か。	8月16日にWSを行い、できている部分、できていない部分が明らかになった。改善が必要な部分が出てきた。	出てきた課題をカテゴリ別（メール・ミーティング・情報共有・担当者）に分け、改善点が見えてきた事に対して連絡ツールの導入や専用保存ドライブの設置、情報共有の方法の改善項目をリスト化した。今後の活動状況に応じてさらに改善をしながら進めていく。 （添付資料①）画像添付あり3枚（①-a,①-b,①-c）
実施をとおした活動の改善、知見の共有	アウトプット「県内におけるさまざまな支援サービス提供者を発掘しネットワークを構築する」について達成できるか。また、見直しが必要か。	9月5日にPO、専門家を交えたWSを行い、ネットワークの在り方、イメージ、機能、必要性、どのように構築するかについてKJ法を用いて各個人の考えを出し合った。それぞれが様々な考え方、イメージを持っており、同じ方向性をもって活動ができていないことがわかった。	ネットワークのイメージ図（添付資料②）を作成し、子育てワンストップセンターの対象者を支援サービス提供者、機能を支援サービス提供者向け支援であることを再確認した。 子育てワンストップセンターは、支援サービス提供者から求められているものなのか？支援サービス提供者は、どのような支援を必要と考えているのか？について、アンケートや団体へのヒアリングを通して収集し活動へ反映していく。 「ネットワーク＝連携」とし、支援サービス提供者から相談等があった場合に連絡できる、つなげる・つながることができる団体を連携団体とし、連携先を増やしていく。また、すでに実行団体が蓄積している県内の子育て支援サービス提供者の整理、リスト化を進め、さらなる連携先を県内に広げるために26市町村を回りさまざまな支援サービスや支援活動の把握、当センターの周知と共に多くの方との繋がりを持ち活動を広げていくことを計画している。
組織基盤強化・環境整備	組織体制・事業体制について団体内スタッフが理解しているか。	アンケート対象:90名 回答者:65名 8月29日～9月12日実施 ・団体のミッションや定	長く勤務している人はミッションや事業について関心があり、理解していることが分かったが、ミッションについてはどの勤務年数でも半数、定款についてはほとんどのスタッフが目を通したことがないことが分かった。事業についても別施設で行っていることについてはあまり知って

		<p>款について「知らない」が4割、「読んだことがない」が7割を超え、組織や事業についてスタッフが理解していないことがわかったため、理解してもらうための改善が必要である。</p> <p>(添付資料③)</p>	<p>おらず、全体的に組織や事業に対する理解が低いと感じた。</p> <p>今後は、スタッフや各施設長に対しアンケートの結果を公表し、各施設長及び事務局と一緒に組織・事業体制を見直すためのミーティングを行う。また各施設では、施設長からもスタッフに伝えていけるよう、スタッフ向け団体概要を作成するなど、事業活動を見直していく。</p>
--	--	--	--

## 2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

実際に活動をしていく中で、短期アウトカムの「ネットワーク」について実行団体スタッフそれぞれが考える、イメージするものは違うのではないかとそれぞれが考えながらもまとめることができていなかった。途中から参加しているメンバーもいるため今回の中間評価に向けて事業の振り返り、その中でも専門家やPOを交えたワークショップをしたことは有意義な時間になったと考えている。

他の人へ自分たちの考えを出すこと、伝えること、うまくまとまらないモヤモヤしていたことへの質問などの投げかけに答えていくことで、少しずつみんなが同じ方向、迷った時には確認、立ち返れる共通のものが見えてきたと感じている。特に、私たちが活動や事業の話をする中で、事業対象者を支援サービス提供者と認識しているにも関わらず、支援サービス提供者・エンドユーザー・支援サービス提供者とエンドユーザーが事業対象者になっていると指摘を受け、自分たちの事業対象者は誰なのか、改めて再確認し、広報等でも明確にしていくこととし、チラシ作成にも着手することができた。また、活動の文言1つとっても捉え方が実行団体、POとそれぞれ違い、違った活動内容をイメージすることなども分かり、これから短期アウトカムの内容をもっと具体的になるように検討していく。

## 3 事前評価時には想定していなかった成果

令和5年4月設置予定の「こども家庭庁」について、内閣官房子ども家庭庁設立準備室 内閣審議官 長田浩志氏を講師に迎え「こども家庭庁について知ろう」講演会を2022年9月22日に開催した。県内の子育て支援サービス提供者や個人、行政の方に参加していただき、これから「こども家庭庁」によって社会の仕組みが変化していくであろうことについて「知る、考える」機会を得ることができた。また、講演会の一部で当事業の説明を行い、周知・広報することができた。



#### 4 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>今回の中間評価で、事業計画全体の見直しを行うことができた。そこで、スタッフ間の認識の違いや、活動がアウトプット、アウトカムへ繋がりにくい部分もあり、活動の見直しが必要だと合意し、残りの事業期間で短期アウトカム達成のために、事業計画を改善する必要があると確認できた。</p>

5 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

活動について出来ている/出来ていない、もしくはなぜ出来ていないのかなど状況確認をし、アウトプット/アウトカムと照らし合わせながら事業計画の改善を行っていきたい。

添付資料

〈添付資料①〉 【実施状況の適切性】 画像添付あり 3枚 (①-a,①-b,①-c)

〈添付資料②〉 【実施をとおした活動の改善、知見の共有】

〈添付資料③〉 【組織基盤強化・環境整備】 アンケート集計結果